

「書物・出版と社会変容」研究会 活動記録

- ・開催日・場所 報告者・報告タイトルなど。
- ・二〇〇三年度から二〇〇八年度まで。例会第一回（二〇〇三年八月二日）から第四十五回（二〇〇九年二月七日）まで。

第一回 二〇〇三年八月二日 一橋大学職員集会所

若尾政希 「十八世紀日本の社会変容と書物」
小関悠一郎 「領主層における書物の受容と藩政改革―米沢藩を事例として」

高橋章則 「型紙と版本と―伊勢から東北にやってきたモノたち」

第二回 二〇〇三年九月十三日 一橋記念講堂

蝦名裕一 「盛岡藩における学問受容と政治抗争」
杉 仁 「在村文化と書物・出版活動」

第三回 二〇〇三年十月四日 一橋大学職員集会所

引野亨輔 「近世日本の書物知と仏教諸宗」
高倉一紀 「伊勢の蔵書家―堀内広城の事例から」

第四回 二〇〇三年十二月二十日 一橋記念講堂

池田照寿 「『玉篇』写本・版本の漢字字体規範に関する研究」

工藤航平 「近世後期における村役人の情報収集・蓄積と行政能力の獲得について」

小川和也 「『藩知』概念の策定をめざして―近世中後期・越後長岡藩における「政治常識」の世界」

第五回 二〇〇四年一月十日 一橋記念講堂

栗野 宏 「初期活版印刷術の東西比較―技術の内在的論理をふまえた一考察」

白井 純 「キリシタン版落葉集と易林本節用集の字体注記―印刷方法との関連から」

小池淳一 「写本の意義―東北地方における民俗文化から」

第六回 二〇〇四年四月十日 一橋大学佐野書院

西村浩子 「古文書・古書籍にみられる角筆文字と角筆

文献研究―忘れられた書記活動が遺したものの」

高野秀晴 「石門、心学における出版活動と門人組織」

第七回 二〇〇四年五月八日 一橋大学佐野書院

佐藤貴裕 「節用集を使う人々―海民の例を中心に」

浅埜晴子 「景物本とその周辺について」

川平敏文 「近世における兼好像の変遷―南朝忠臣説を中心に」

第八回 二〇〇四年六月十二日 一橋大学佐野書院

磯部 敦 「明治一〇年代、活字翻刻本の地平」

竹松幸香 「近世後期加賀藩出版文化の諸相」

第九回 二〇〇四年七月二四日 一橋大学職員集会所

一瀬千恵子 「日本と朝鮮における文禄・慶長の役に関する研究―『太閤記』と『壬辰録』を中心に」

鈴木俊幸 「書物流通史研究という方法、書物流通史研究の方法」

第十回 二〇〇四年九月十一日 一橋大学佐野書院

川島秀一 「ホンヨミの民俗」

杉 仁 「蚕書の改訂出版とその背景、蚕法論争と飼

育実験―信州上塩尻村宝暦く寛政期『養蚕秘書』と弘化く明治初期『養蚕教弘録』を

中心に」

※「東アジア出版文化の研究」プロジェクト「印刷に関する技術史の諸相と資料保存の研究会」との合同研究会

第十一回 二〇〇四年十月二日 一橋大学職員集会所

高橋明彦 「近世藩版の書誌的調査一例」

高倉一紀 「伊勢〈射和文庫〉の蒐集活動と納本―幕末公開文庫における蔵書構築の実態」

第十二回 二〇〇四年十一月六日 一橋大学職員集会所

岩橋清美 「『新編武蔵風土記稿』編纂に見る歴史意識の相剋」

宮内貴久 「家相の学習とその実践者―山形県置賜地方を中心に」

第十三回 二〇〇四年十二月四日 一橋大学佐野書院

中嶋英介 『武道初心集』の史的展開―松代版発行を中

心に」

柏崎順子 「江戸版・上方版考」

第十四回 二〇〇五年一月八日 一橋大学職員集会所

高橋章則 「代官手代―地域文化の媒介者たち」

横田冬彦 「近世の軍書と〈歴史〉」

第十五回 二〇〇五年二月五日 一橋大学佐野書院

曾根原理 『東照社縁起』の諸本―出版されなかつたこ

との意味」

桐原健真 「幕末志士の読書―吉田松陰の書籍貸借をめ

ぐる」

第十六回 二〇〇五年四月九日 一橋大学職員集会所

小川和也 「牧民官の時代―近世における『牧民忠告』

の展開・仁政から藩政へ」

富澤達三 「幕末江戸の時事錦絵」

第十七回 二〇〇五年五月十四日 一橋大学佐野書院

佐藤宏之 「越後騒動物」諸本の研究―御家騒動物語研

究序説」

綱川歩美 「垂加神道思想の受容と書物―江戸垂加派を

中心に」

杉 岳志 「彗星をめぐる〈書物の知〉とフォークロア」

第十八回 二〇〇五年六月四日 一橋大学佐野書院

福澤徹三 「農業雑誌の受容と実践―南多摩郡平尾村鈴

木静蔵の事例を中心に」

松本 望 「大坂代官の知的活動と読書―竹垣直道日記

を素材に」

杉本史子 「沈黙の大地―幕末期、出版文化のなかの一

覧図」

第十九回 二〇〇五年九月十日 一橋大学佐野書院

福原敏男 「祭礼画像について―祭礼の摺物・番附を中

心に」

亀川泰照 「祭礼番附考―江戸の祭礼を中心に」

皆川義孝 「御用留にみる嘉永四年の天下祭と摺物」

滝口正哉 「神田祭礼と納札文化―出版文化を支えた「中

人以下」の世界」

第一回 酖奇会たんきかい（酖奇会とは研究会参加者が持ち寄った書物・

出版物・印刷用具などの鑑賞会。開催は不定期）。

第二十三回 二〇〇六年四月八日 一橋大学佐野書院

吉田麻子 「気吹舎の再生と出版」

渡部圭一 「式内社・論社問題における書物知識―埼玉

県所沢市中氷川神社を事例として」

第三回 酖奇会

第二十回 二〇〇五年十月一日 一橋大学職員集会所

佐藤 温 「政治・商業・文事の交錯―大橋淡雅・大橋

訥庵・菊池教中と幕末の文芸」

久野俊彦 「修験道聖教の形成―龍藏院（福島県南会津

郡只見町楢戸）旧蔵書」

岩坪充雄 「和刻法帖について」

第二十一回 二〇〇五年十二月三日 一橋大学佐野書院

大沼美雄 「下野国黒羽藩主大関家の蔵書目録と近代へ

の蔵書の伝存」

杉 仁 「在村漢詩人とその出版活動―勢州四日市お

よび信州中野」

第二十二回 二〇〇六年一月七日 一橋大学佐野書院

小田真裕 「村役人の国学受容と農書―宮負定雄の農政

論」

浅岡邦雄 「明治期奥付考」

第二回 酖奇会

第二十三回 二〇〇六年四月八日 一橋大学佐野書院

吉田麻子 「気吹舎の再生と出版」

渡部圭一 「式内社・論社問題における書物知識―埼玉

県所沢市中氷川神社を事例として」

第三回 酖奇会

第二十四回 二〇〇六年五月十三日 一橋大学佐野書院

小川和也 「近世前期の領主思想と『牧民後判』の成立

―伊勢桑名藩主・松平定綱と山鹿素行」

石山秀和 「戯作にみる江戸の教育」

第二十五回 二〇〇六年六月一〇日 一橋大学佐野書院

小関悠一郎 「『明君録』の伝播と藩政改革指導者の思想」

高橋明彦 「加賀藩版『韓非子解詁全書』の諸本」

第二十六回 二〇〇六年七月八日 一橋大学佐野書院

鈴木啓考 「読者から記者へ―原敬の思想形成」

松田泰代 「『解体新書』の書誌学的研究―『書肆須原屋

市兵衛の研究』より」

第四回 酖奇会

第二十七回 二〇〇六年九月九日 一橋大学佐野書院

勝又基 「岡山藩の孝子顕彰と説話」
蔵本朋依 「長州藩の出版」

第二十八回 二〇〇六年一〇月七日 一橋大学佐野書院

綱川歩美 「鹿島神宮文庫の再建計画―納本をめくって」
湯浅淑子 「天保く嘉永期、判じ物タイプの風刺画は、
どのように作られ、見られたか」

第二十九回 二〇〇六年十二月二日 一橋大学佐野書院

岩崎均史 「大小研究の現状―『大小暦』からの出発」
浅岡邦雄 「納本・検閲・委託本」

第五回 酖奇会

第三十回 二〇〇七年二月三日 一橋大学佐野書院

矢森小映子 「渡辺崋山の思想形成過程を探る―一九世紀
前半の時代像・社会像」
杉 仁 「手付文人」素軒「大塚揆の書き物と書物出
版活動」

第三十一回 二〇〇七年四月七日 一橋大学佐野書院

鈴木俊幸 「学問と生活―近世後期民衆の学芸世界」

岩坪充雄 「江戸時代に見る篆書体の受容と字書・法帖
の出版」

第三十二回 二〇〇七年六月九日 一橋大学佐野書院

みつまつまこと 「幽界物語」と気吹舎の変容」
山本英二 「農諭」と「慶安御触書」について」

第三十三回 二〇〇七年七月二十一日 一橋大学佐野書院

三木崇臣 「嵯峨本『伊勢物語』の覆刻整版本に関する一
考察」

久野俊彦 「口碑・伝説集の形成と出版―口頭事象の文字
化」

第三十四回 二〇〇七年一〇月六日

松田泰代 「『重訂解体新書』出版に関する一考察」
鈴木理恵 「安芸国山県郡井上家の神書について」

第三十五回 二〇〇七年十二月一日 一橋大学佐野書院

梅田千尋 「近世土御門家に関わる学知と出版」
石塚純一 「『編集者』の成立について―与謝野鉄幹・金

尾種次郎・滝田樗陰を中心に」

第六回 猷奇会

を手がかりにして」

第三十六回 二〇〇八年一月十二日 一橋大学佐野書院

第三十九回 二〇〇八年五月三十一日 一橋大学佐野書院

湯川真人 「近世後期庄内地域・名主佐藤家の書物ネット

吉田麻子 「北信州の気吹舎門人と出版―大和屋（掛川）

トワークに関する一考察―「五峯館蔵書」

吉兵衛とその周辺―

と「書籍貸借記并書物注文代記」を中心に」

中川和明 「幕末平田塾と地方国学の展開―津軽国学を

中心に」

牧野和夫 「宋人張成所持宋刊大藏經のゆくえ―知恩院

藏大藏經をめぐる」

第四十回 二〇〇八年七月五日

山本英二 「温泉と貸本―城崎温泉を事例に」

第三十七回 二〇〇八年二月二日 一橋大学佐野書院

鈴木俊幸 「清水家文書にみる明治期安曇郡の書籍文化」

木場貴俊 「「怪異」と禁制―『本朝神社考』『僧正谷』

を手がかりにして」

第四十一回 二〇〇八年十月四日 一橋大学佐野書院

青木美智男 「近世後期女性の読書と蔵書について」

河内聡子 「雑誌『家の光』の普及過程に見る地域メディア

イアの展開」

第三十八回 二〇〇八年二月二日 一橋大学佐野書院

曾根原理 「小宮豊隆と個人文庫」

湯川真人 「近世後期庄内地域・名主佐藤家の書物ネット

トワークに関する一考察―「五峯館蔵書」

第四十二回 二〇〇八年一月一日 愛知県西尾市岩瀬文庫

と「書物貸預記并書物注文代記」を中心に」

加藤弓枝 「書籍講」の成立とその背景―近世後期非蔵

木場貴俊 「「怪異」と禁制―『本朝神社考』『僧正谷』

人による営みを中心に」

松尾由希子 「近世後期尾西在村国学者の蔵書にみる教養とネットワーク」

高橋章則 「狂歌が結ぶ「知」と地域―名古屋・仙台」

第四十三回 二〇〇八年十二月六日 一橋大学佐野書院

神林尚子 「烈女お藤」像の生成―幕末・明治期の文芸

にみる風聞の変容と成長」

八鍬友広 「往来物「直江状」の微妙な立ち位置」

第四十四回 二〇〇九年一月一〇日 一橋大学佐野書院

原淳一郎 「近世旅行史と出版文化」

鈴木栄樹 「島田三郎著『開国始末―井伊掃部頭直弼伝』

の成立―旧幕臣・都市民権運動家と新史学」

第四十五回 二〇〇九年二月七日 一橋大学佐野書院

上田早苗 「平田門人帳の史料学的考察」

牛木純江 「一九二〇年代雑誌『婦人之友』と読者組合」